

ウォッチガード、シンプルでスケーラブルなセキュリティの導入、管理、レポートングを実現するMSP向け WatchGuard Cloudプラットフォームを発表



強力なクラウドプラットフォームによるセキュリティサービスの迅速な導入と自由なスケーリングでITソリューションプロバイダの運用効率と収益性の向上を支援

2019年4月18日（木）

一企業向け統合型セキュリティプラットフォームのグローバルリーダであるWatchGuard (R) Technologiesの日本法人、ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表執行役員社長 谷口

忠彦、以下ウォッチガード）は、クラウドベースのシングルインターフェースにより、セキュリティ管理とレポートングを一元化するWatchGuard

Cloudプラットフォームを発表しました。WatchGuard

Cloudは、マネージドサービスプロバイダのサポートを念頭に構築されており、インフラコストの削減、顧客獲得の加速、そしてレポートングおよび運用タスクに要する時間の短縮を可能にします。

ウォッチガードのプロダクトマネジメント担当シニアバイスプレジデントであるAndrew Young（アンドリュー・ヤング）は、以下のように説明しています。「MSPでは、セキュリティの強力な知見、優れたスケーラビリティ、そして容易な導入プロセスを提供する最先端のクラウドホステッドセキュリティソリューションを必要としています。ウォッチガードのミッションはサイバーセキュリティをシンプル化することであり、ミッションはエンドユーザのみならず、ウォッチガードの製品やサービスを導入、構成、管理するパートナーにも適用されます。ウォッチガードのDNAにはシンプル性が中核を成しており、この思想を私たちのパートナーにまで拡大したものがWatchGuard Cloudだと言えます。」

WatchGuard

CloudプラットフォームはMSPの将来を担う管理プラットフォームであり、顧客を保護する方法をシンプル化するとともに、迅速かつ効率的で収益性の高い成長をMSPにもたらします。真のマルチティア、マルチテナント機能を提供し、スケーリングの自動化により、MSPは顧客アカウントの自由な作成と管理、WatchGuardアプライアンスの新規導入、WatchGuardアプリケーションの管理と導入、そして顧客ネットワークにおける貴重な知見の取得を可能にします。

WatchGuard Cloudプラットフォームの主な機能：

自由なアカウント管理 - WatchGuard

Cloudはマルチティア、マルチテナントのアーキテクチャで構築されており、サービスプロバイダは数やタイプに制限されることなく顧客アカウントを作成、運用することが可能で、テナント別、および情報へのロールベースアクセス権限毎にデータを分離することができます。

スケーラブルパフォーマンス -

プラットフォームでは迅速かつ自動でコンピューティングおよびストレージ要件に対応することが可能であり、ハイパフォーマンスを維持しながらテラバイト級のデータを活用したレポートを数秒で作成し、知見のサマリを提供することができます。

インベントリの割当てとアカウント委任 - WatchGuard

Cloudの強力なインベントリ管理機能により、サービスプロバイダは全ての顧客に関するライセンス状況を閲覧・追跡することができます。また、顧客のサービスモデルに合わせてサービスを割当てたり解除したりすることができます。さらに、WatchGuard

Cloudではテナント機能も提供しており、期間と許可権限の制御を含め、別のテナントにアクセスをデリゲート（委任）することも可能です。

アラートと通知の自動化 - WatchGuard

Cloudプラットフォームは一元管理インターフェースとして、Firebox

UTMの可視化やAuthPointの多要素認証イベントを含め、ユーザは全てのセキュリティアプリケーションにわたり、迅速かつ容易にアラートや通知を設定することができます。MSSPは、顧客のライセンス、利用状況、契約満期からセキュリティやパフォーマンスのアップデートまで、あらゆる情報の通知にアクセスすることが可能です。

柔軟なデータ保持 - WatchGuard Cloudでは、WatchGuard Total Security

Suiteにおける30日間のデータ保持など、多彩なデータ保持オプションを用意しており、ロギングやレポートのための構成、導入、維持、およびサーバやアプライアンスのスケーリングの手間を排除しています。

ゼロインフラ要件 -

クラウドホステッドサービスのため、プラットフォームにはサービスプロバイダが導入するためのハードウェア要件がなく、結果としてコストを削減し、ローカルでもデータセンターでもサーバを導入し、維持するための負担をなくすことができます。

強力な可視化とレポート - WatchGuard

Cloudは実績豊富なDimensionソリューション上に構築されているため、100種類以上のダッシュボードやレポートが用意されており、主要なネットワークセキュリティの脅威、課題、傾向を特定し、素早く有効なセキュリティポリシーの設定と実行を行うことができます。

プラットフォームとデータセキュリティ -

セキュリティの一元管理とクラウドホステッドプラットフォームはウォッチガードにとって最優先事項です。高度な多要素認証によりユーザログインが保護されるだけでなく、WatchGuard Cloudは転送データと保存データ向けのビルトインのセキュリティを提供しており、その他ロールベースのアクセス制御、テナント間のデータの論理分離、そしてサブスクリバアカウントのパーティション機能を提供します。

eMazzanti Technologiesのプレジデント、Carl

Mazzanti（カール・マザンティ）氏は、次のようにコメントしています。「WatchGuard

Cloudの容易な導入、きめ細かい知見、そして費用対効果の高さは私たちのビジネスにとって画期的なものとなりました。リテール業界では遅延、ダウンタイム、セキュリティ攻撃は致命的です。直感操作に優れたWatchGuard

Cloudのインターフェースにより、高度なセキュリティとコンプライアンスの維持、場所を問わない各ロケーションの管理・監視、そしてリアルタイムでのパフォーマンスやセキュリティ攻撃に関する深い洞察を獲得し、私たちの顧客から多大なる信頼を得ています。」

WatchGuard

Cloudプラットフォームはセキュリティアプリケーションの一元管理機能を提供し、MSPは顧客に対して差別化された収益性の高いサービスを容易に提供することが可能です。プラットフォームに関する詳細は以下をご覧ください。

URL:<https://www.watchguard.com/wgrd-partners/cloud-platform> (英語)

【WatchGuard Technologiesについて】

WatchGuard (R) Technologiesは、ネットワークセキュリティ、セキュアWi-Fi、多要素認証、そしてネットワークインテリジェントを提供するグローバルリーダとして、全世界で約10,000社の販売パートナーとサービスプロバイダより80,000社以上の企業にエンタープライズクラスのセキュリティ製品とサービスを提供しています。ウォッチガードのミッションは、中堅・中小企業や分散型企業を含むすべての企業がエンタープライズレベルのセキュリティを簡単に利用できるようにすることです。本社を米国ワシントン州シアトルに置き、北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地区、中南米に支社を展開しています。日本法人であるウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社は、数多くのパートナーを通じて、国内で拡大する多様なセキュリティニーズへのソリューションを提供しています。詳細は <http://www.watchguard.co.jp> をご覧ください。

さらなる詳細情報、プロモーション活動、最新動向はTwitter (@WatchGuardJapan)、Facebook (@WatchGuard.jp)、をフォローして下さい。また、最新の脅威に関するリアルタイム情報やその対策法はSecplicityJPまでアクセスして下さい。

SecplicityJP : <https://www.watchguard.co.jp/security-news>

WatchGuardは、WatchGuard Technologies, Inc.の登録商標です。その他の商標は各社に帰属します。

【本プレスリリースに関するお問合せ】

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社
〒106-0041

[東京都港区麻布台1-11-9](#) BPRプレイス神谷町5階

マーケティング担当：角田

Tel : 03-5797-7205 Fax : 03-5797-7207

Email : jpnsales@watchguard.com

URL : <https://www.watchguard.co.jp>

Generated by ぷれりりプレスリリース

<https://www.prerele.com>